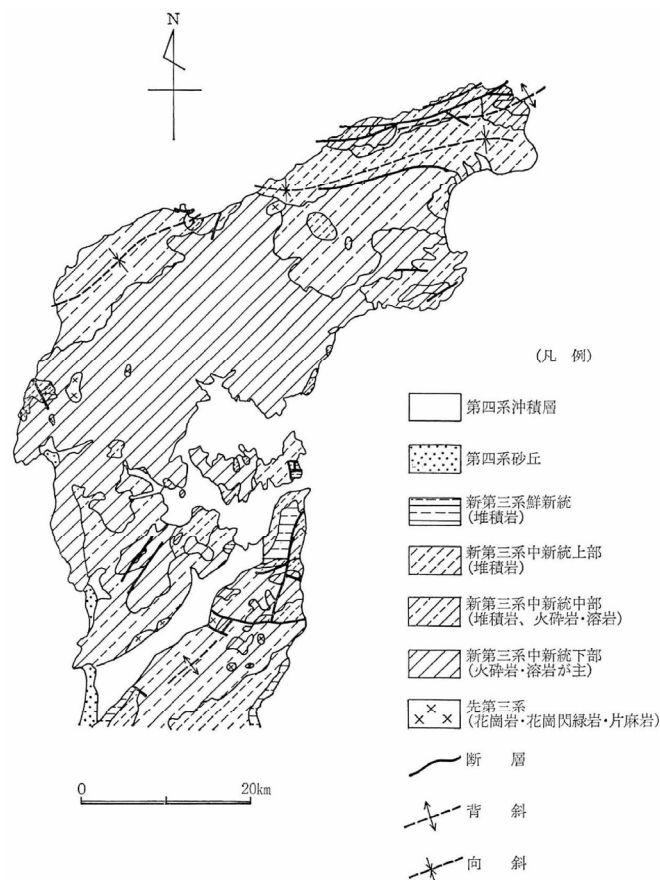


地形・地質

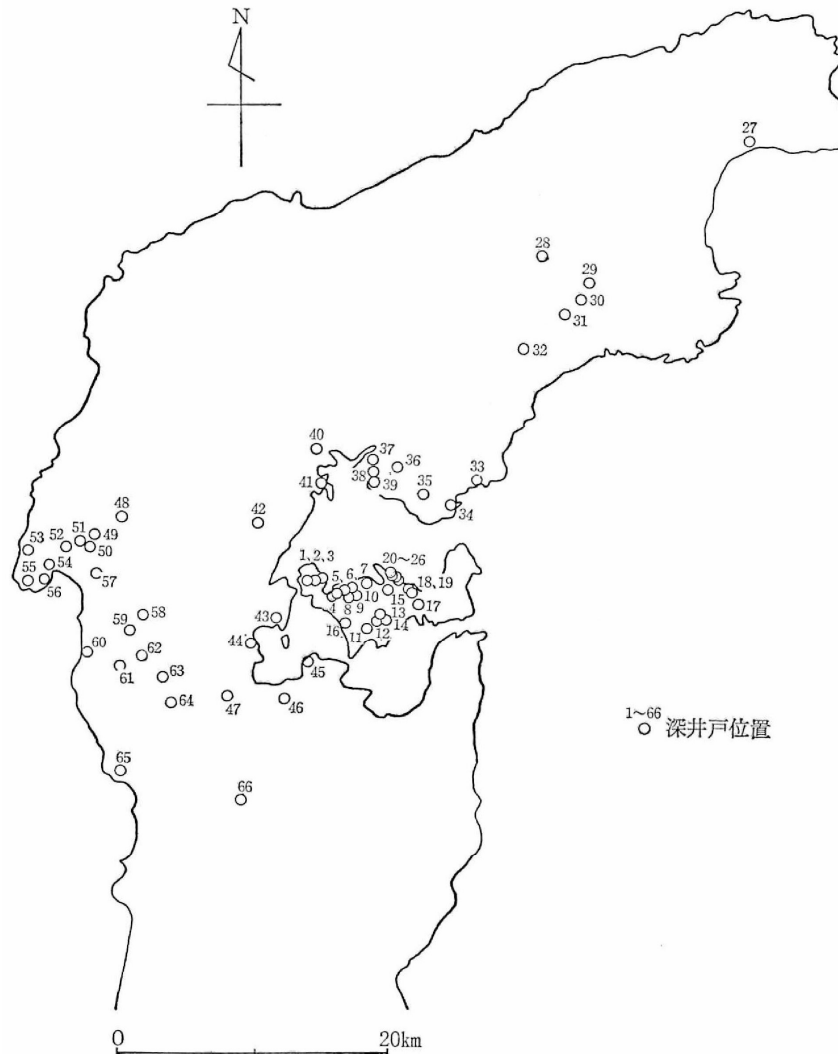
能登半島は細長い半島で日本海に突出しています。半島の主部は丘陵性山地で、海岸沿いには段丘地形がみられ、沖積平野は狭い樹枝状の谷底平野が分布している程度です。丘陵性山地は、ほぼ新第三紀の火山岩類や堆積岩類によって構成されます。



能登半島の地質図

地下水

能登半島の主部における地下水は、新第三紀火山岩類中の裂か水が主です。このほか能登半島の基部に分布する新第三紀中新世中部の赤浦砂岩層・堀松砂岩層は、固結度が低く、かつ中～粗砂のため、この付近における有力な帯水層となっています。



能登半島の深井戸分布図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwddb.html>（日本地下水学会）